



新しいまちづくりの担い手

荒尾市には現在「元気づくり」と呼ばれる団体が、各地区ごとに活動を行っています。本年度までに実際に活動を行っているのは11の地区、来年度までには最後の1地区となった緑ヶ丘地区でも活動が行われることが決まり、現在準備が進められています。

この「元気づくり」とは、所属組織や年齢などを問わず、地区に住む人ならば誰もが参加することができ、まちづくりの組織の総称です。市で平成14年に策定した第四次荒尾市総合計画に盛り込んだ「市民と行政による協働のまちづくり」の推進を目指し、平成15年から取り組みが始まりました。「元気づくり」は、まちづくりの担い手としては、まだ新しい団体ですが、現在この元気づくりの活動が、まちづくりに大きな役割を果たすようになってきました。

かつては自治会（区・公民館・町内会などとも呼びます）と共に、子ども会や婦人会、青年団などが地域の活動を担いながら、まちづくりを行ってきました。しかしそれらが社会の変化と共に活動を縮小するなどするにつれて、地域コミュニティ内の人をつないで来た活動は担い手を失い、地域の活動そのものが弱まる傾向にありました。

私たちが住んでいる地区では「地域元気づくり事業」が行われています。「元気づくり」とは、地域住民の皆さんが地区ごとに組織したまちづくり団体の総称のことです。この各地区の「元気づくり」が、市役所と協働で行うまちづくり活動のことを「地域元気づくり事業」と呼んでいます。最初に「元気づくり」が組織され、活動を始めて8年。今年、12地区すべてで活動が行われることになりました。「元気づくり」を通じて住民の皆さんの視点での活動で実施する催しは、市で行われている催しとしても定着し、市民の皆さんに浸透しつつあります。少子高齢化の波が押し寄せ、隣近所や学校や子どもたちを介した人間関係をもとに成り立っていた地域社会の形は今、変化しつつあります。変化を受け入れつつ、地域コミュニティを再度構築し、住み慣れたまちを自らの手でよりよいものとしようとする「元気づくり」。この元気づくりの生み出す力は今や、荒尾の「元気」の基礎となっています。

これまで地域の行事などを通じ、さまざまな団体が自然な形で地域の福祉、防災、防犯、伝統、教育の醸成に携わってきましたが、地域コミュニティが機能を弱めたことで、まちの基礎的な安心安全を守り、伝統などまちの良さを受け継ぐシステムも弱まりました。また、住民ニーズの多様化によって増加する課題の解決に、行政だけでは細やかな対応を行うことが困難になってきました。

ならば、地域と行政とが手を携え、協働でまちづくりを行うことで地域を元気にし、地域から荒尾を元気にしていこうと「地域元気づくり事業」を実施することになりました。これが「元気づくり」の出発点です。

現在それぞれの「元気づくり」では、地域の課題を地域のニーズに合う形で取り組み、地域を自らの手で活性化しています。この「元気づくり」の取り組みの中心は、地区で行うイベントや清掃活動などさまざまな行事です。「地域の良さを生かす活動」というのは当然のことのようですが、改めて「元気づくり」として地域で地域の良さを考え、取り組むことで、思わぬ成果が生まれ始めています。まちづくりのひとつのツールとしての「元気づくり」。それはどのような思いで活動が始まり、その活動を深化させているのでしょうか。



1_音と光の祭典(一小) 2_歴史探訪ウォーキング(平井) 3_バードウォッチング(有明) 4_メダカの学校(二小) 5_カブトムシ配布(清里) 6_門松づくり(万田中央) 7_万田公園芙蓉植え(井手川) 8_エコバッグ作り(中央) 9_運動会(八幡) 10_護身術教室(桜山)

まちをつくる ひとのちから

まちをつくるひとのちから

「花と笑顔あふれるにぎわいの街 二小」

二小元気会

◆代表者【委員数】 発足年・月
一二三宏【69人】平成16年2月
◆代表事業（実施時期）
「あらお風あげ大会」（11月）
これまで7回実施。
風あげと風づくり教室を中心に、ステージ発表・フリーマーケットなどを実施。
◆その他の主要事業
まち美化事業（メダカ小学校）、高齢者がいきいきと元気で暮らすまちづくり事業、地域住民と子どものふれあい事業



「自然・歴史・ふれあいの里 平井」

平井校区元気づくり委員会

◆代表者【委員数】 発足年・月
西山静雄【24人】平成15年11月
◆代表事業（実施時期）
「岩本橋鯉のぼりまつり」（5月）
これまで7回実施（本年度は中止）。
岩本橋に鯉のぼりを飾り、ステージ発表やフリーマーケットなどを開催。
◆その他の主要事業
岩本橋周辺への花植え、四季の花街道づくり、ホタルの里づくり（観賞会）、ふれあい広場、地域資源マップ、冊子作り



あなたのまちの「地域力」
元気づくり事業では
こんな活動を展開中です

継続は、 パワー

「人と自然が和む 共生のまち」

一小校区元気づくり委員会

◆代表者【委員数】 発足年・月
福田和寛【92人】平成17年7月
◆代表事業（実施時期）
「音と光の祭典 in 宮崎兄弟生家」（10月）
これまで6回実施。音楽やダンスなどのステージ発表とバザー。夜はキャンドルで会場をライトアップ。
◆その他の主要事業
干潟で遊ぶ（清掃・潮干狩り）、豊かなふるさとの川づくり、あいさつ交わそう花の道、一小再生工場、創ろう安心安全の地域



「未来につなごう ふれ愛の有明」

有明元気づくり

◆代表者【委員数】 発足年・月
塚本憲正【54人】平成16年10月
◆代表事業（実施時期）
「有明ふれ愛まつり」（10月）
これまで7回実施。地域住民や幼稚園児のステージ発表と品数豊富な食品バザー。
◆その他の主要事業
パードウォッチング大会、堤防壁面の制作（海の美術館）、海岸清掃・ベンチ整備、防犯灯の設置、増永公園を綺麗にしよう、浦川クリーン作戦、ふれ愛パトロール



「元気で心豊かな小岱の里 府本」

府本校区いきいき小岱会

◆代表者【委員数】 発足年・月
村上孝治【61人】平成16年9月
◆代表事業（実施時期）
「カラモ掘り大会」（10月）
7年間連続で開催中（開催回数は年により異なる）。カラモカレーとふかしイモ食べ放題。イモは5kg500円で販売。
◆その他の主要事業
紅葉狩りウォーク、まち美化作業、高齢者がいきいきと元気で暮らすまちづくり事業、地域住民と子どものふれあい事業



「ふれ合い かたり会い たすけ愛のまち 桜山」

桜山げんきかい

◆代表者【委員数】 発足年・月
久能健司【50人】平成18年11月
◆代表事業（実施時期）
「桜山ふれあいげんき祭り」（9月）
これまで3回開催。子どもみこしや桜山小学校体育館でステージ発表など。
◆その他の主要事業
桜山クリーン活動（花いっぱい、ごみ清掃、除草活動）、つなぐ手 桜山（浴衣の着付け教室、映画観賞会、「シエスタ」へ参加）、遊休農地の活用（さくら農園）、地域マップ



「伝統に息づく 心安らぐまちづくり」

八幡元気づくり委員会

◆代表者【委員数】 発足年・月
旭田国浩【55人】平成18年8月
◆代表事業（実施時期）
「八幡盆踊りの集い」（8月）
これまで5回開催。盆踊りをとりいれた夏祭り。地域の幼稚園児による子どもみこしやバザーなど。
◆その他の主要事業
親子で歩こう 赤田池（地域発見ウォーキング）、野原八幡宮の活用、安心安全作戦、八幡クリーン作戦、遊休農地の活用



「万田山にいだかれたふれあいの町」

万田山いきいき町づくり会

◆代表者【委員数】 発足年・月
増永征治【83人】平成17年8月
◆代表事業（実施時期）
「万田山ハイキング」（2月）
これまで5回開催。日頃から遊歩道の除草や展望台・標識の整備などを行っている万田山に昇り、眺望を満喫。
◆その他の主要事業
花いっぱい運動、クリーン作戦、ふれあい運動会、文化祭、子どもとおとなの居場所づくり、安心して暮らせる地区づくり



「みんなで守ろう歴史のまち 井手川地区」

井手川地区元気づくり会

◆代表者【委員数】 発足年・月
屋葺茂子【55人】平成21年6月
◆代表事業（実施時期）
「盆踊り大会」（8月）
これまで2回開催。盆踊りを通じた地域住民の交流の場。
◆その他の主要事業
クリーン作戦（清掃・除草作業、万田公園整備、ホタル生息地の環境整備）、花壇づくり・花植え、グラウンドゴルフ、地域の安心安全（講演会、防犯のぼり制作）



「和と輪がひろがる よかまち中央」

よかまち中央会

◆代表者【委員数】 発足年・月
松井忠憲【64人】平成19年8月
◆代表事業（実施時期）
「よかまち中桜祭」（3月）
これまで2回開催（本年度は中止）。野外音楽堂でのステージ発表やバザー。
◆その他の主要事業
よかまちスポーツ交流大会、ふれあい文化交流、屋形山オリエンテーション、あじさいのまちづくり運動、クリーン作戦、よかまちバッグ（マイバッグの作成・使用）



「清里人の心の故郷づくり」

清里元気づくり会

◆代表者【委員数】 発足年・月
東田専一【90人】平成19年7月
◆代表事業（実施時期）
「海岸清掃とタコ掘り大会」（4月）
これまで4回開催。海岸清掃後、アシナガダコ漁を体験。
◆その他の主要事業
地域クリーン活動（海岸・浦川の清掃、花いっぱい活動、野菜作り）、水源の郷でふれあい、元気、健康づくり（カブトムシの飼育・配布など）、子どもの安全パトロール



来年度から「元気づくり」事業に取り組み緑ヶ丘地区。新旧の大規模な住宅街が混在する地域で、以前は「同じ地域に住む住民同士のコミュニケーションも少なかった」と、緑ヶ丘地区協議会会長の三露洋介さんは言います。しかし、「自分たちが住む地域だ」という意識は誰もが強いところだと感じます。だから3年程前から、社協連で少しずつ行事を実施し、準備期間を設けました。まちが整って「元気づくり」発足まで、約10年かかりましたね」と語ります。

一度立ち上げの打診があったものの、「時期尚早」と断ったという三露さん。同じく元気づくり事業に携わる岱洋東区長の井上さんが「満を持して発足」と語ることも、まちづくりの機運とエネルギーの高まりを待っていた様子が伝わります。そして「荒尾で一番活発になって行く地域です。ここが元気にならなくては、荒尾が元気にならない」と意気込みを語ります。

緑ヶ丘地区では現在、具体的な活動について会議が重ねられています。現在の参加はおよそ80人。環境・交流・安心安全の3部会の会議は活発で、熱意が会議室に籠ります。三露さんは「人口が多いので、お互い知らないだけで素晴らしい人材が多いはず」とまちの人の力に自信を見せます。また、元気づくりが退職後などに地域で活躍できる場所として

12ある地区のなかで、最後に「元気づくり」を発足するみどりが丘元気かい。市の副都心と位置付けられ、人口およそ4千8百人、世帯数も1千6百世帯程と、市内で最も人口が多く、年齢層も幅広い地域です。動き出すきっかけは、まちへの強い思いと、人の交流の深まり、そして豊かな人材の発見です。

しての受け皿になることも期待していると語ります。「事業を開始したら、地区内に定期的な周知をしっかりとやっていきます」と話すのは、今回みどりが丘元気かい会長を務める瀬戸洋さん。より多くの人の力を得ることで、力強く持続するまちづくりを目指します。

みどりが丘元気かい

みどりが丘元気かい

◆代表者【委員数】 発足年・月
瀬戸洋【81人】平成23年9月
◆現在までの経過
・意見の広場（全3回） 5/21、6/4、6/18
・まとめの広場（全3回） 7/9、7/23、8/20
・設立総会 9/11
・計画の広場（全2回の予定） 10/15～



（左）井上逸輝●いのうえいつき 昭和16年生まれ、岱洋東区在住。岱洋東区長、行政協力員
（中央）瀬戸洋●せとひろし 昭和17年生まれ、緑ヶ丘4-5丁目在住。みどりが丘元気かい会長。
（右）三露洋介●みつゆようすけ 昭和16年生まれ、緑ヶ丘2丁目在住。緑ヶ丘地区協議会会長、行政協力員。



元気づくりとひとのちから

各地区で活発に行われている「元気づくり」の事業。地域に根差した活動が、まちをよくするための有効な手段のひとつに成長しました。

府本校区いきいき小岱会では、実施した事業をきっかけに、「元気づくり事業以外の活動が地域に生まれ始めていました。」

地域内で組合を組織し農作物を販売する活動は、地域で農業に携わる人たちの収入や生きがいになり、コスモスを植える環境美化の活動は、環境改善以外にも、交通事故を減らすという効果も発揮しました。

住んでいるまちで安心安全に、未永く暮らすために、生活の糧や生きがいを得ること、一人ではできない安心安全を地域で作って行くこと、あらゆる視点でまちの良さを生かそうという「元気づくり」の活動が、「元気づくり」の内にとどまらず、その先へ発展を見せていることこそ、より住みよいまちへの確かなステップを昇っていると感じました。

またインタビューした両市地区で話題に上った「高齢者の見守り・声掛け」への思いに、地域が目指す姿がはっきりと浮かび上がります。高齢者を確かに見守り、手助けしていこうという取り組みは、催しとして人を集めるものではありません。しかしこれは誰もが

未永く自分たちのまちで暮らしていくことを考え、長いスパンで住みよい地域をつくるために、とても重要なシステムを構築しようということでもあります。

どんな人も安心して暮らせるまちをつくること―それは他の地区にも共通する願いであり、目標であると思います。その担い手としての「元気づくり」は、今後地区協議会の一構成団体としても、活躍が期待されると思います。

より快適に、より幸せに暮らしたい。誰もが望む幸せに暮らせる環境を、家族や隣人、地域の住民の皆さんと分かち合い、自ら描いていく。地域で汗した活動が地域を助けるだけでなく、時に生きがいや糧になる可能性があるのが「元気づくり」です。これからまちづくりに取り組んでいく緑ヶ丘地区の皆さんが、しっかりと向かい合い、目を輝かせてまちの形を語りあう姿に、荒尾にはまだ、ひとをつなげまちをつくる力が存在しているのではないかと、どんな地域にも荒尾の「宝」となる逸材がいるのではないかと感じています。

その力と可能性を持っているのは、きっと、私たち一人一人です。その手で、住む地域のまちづくりに、そして触れてみませんか。まちの未来をもっとひととわかるくする力が、きっと宿っています。



府本校区いきいき小岱会は、平成16年に設立し、現在15人の役員を中心に、カライモ掘り大会、コスモス栽培、紅葉狩りウォーキングなどを実施しています。

「うちの地区の人はみんな、地区のことが大好きなんですよ」と話すのは、同会会長の村上孝治さんと、事務局長の門田保則さん。そんな同会が最初に取り組んだ事業は、樺の広域農道の入口付近の休耕地にコスモスを植える事業です。「役員で地区を見回って、まず解決したいと思ったことでした」と門田さんは言います。

広域農道の入口は、市の玄関口のひとつ。周辺が荒れていることで、ごみの不法投棄が絶えない場所でした。土地が荒れると、人が荒れる。地域が土地と共に荒れるを防ぎたいと、この事業は同会の正式な発足の前に、田を耕し始めました。

「実はコスモスを植えてから、交通事故も減ったんですよ」と二人は嬉しそうに話してくれました。原因は定かではありませんが、それまで心を痛め

地区を愛する心が力になる
新しい可能性を光らせる

府本校区
いきいき小岱会

ていた交通事故が減ったことを、地域の人は肌身で感じています。もちろん不法投棄も減。更に樺地域の人たちが自発的に「百姓市場組合」を発足、コスモス畑の傍で日曜市を開くことで、人が集うようになりました。

もうひとつ、同会の行事で話題を呼んでいるのが、カライモ掘り大会です。これもかつての休耕地を利用したもので、金山の赤土から採れる美味しいカライモを自当てるに、市内外から多くの人が参加します。今年250人も人が訪れ、半数は市外の人だったそうです。

「金山のカライモはブランド化できるかもしれない」という美味しいカライモは、参加者にふかしイモとカライモカレーで堪能できます。このおもてなしも、人を呼びよせる秘訣。外からまちに注目してもらえ、ことはやりがいにつながっています。

お二人に今後の抱負を尋ねたところ「きれいな地域をつくること。そして高齢者と子どもが交流し、楽しい地域づくり」と語ってくれました。事業は地域に多い高齢者への声掛けの大切なきっかけで、参加してもらうことで元気づくりになってもらいたいと思います。

「地区民全員が会員です」と地域全体で取り組む同会の活動は、市外にも波及し、多くの人を呼び、新たな可能性を感じさせてくれています。

(左) 村上孝治 ●むらかみこうじ 1933 (昭和8) 年生まれ、府本上在住。府本校区いきいき小岱会会長。他にも府本校区社教連会長、府本公民館長、行政協力員、府本区長、みどり推進員など。

(右) 門田保則 ●もんだやすのり 1963 (昭和38) 年生まれ、樺下在住。府本校区いきいき小岱会事務局長。府本校区社会教育主事補、府本校区社教連事務局長、荒尾高校 PTA 会長など。

